

- 9 . どのようにして若い人は自分の道をきよく保てるでしょうか。
 あなたのことばに従ってそれを守ることです。
- 10 . 私は心を尽くしてあなたを尋ね求めています。
 どうか私が、あなたの仰せから迷い出ないようにしてください。
- 11 . あなたに罪を犯さないため、私は、あなたのことばを心にたくわえました。
- 12 . 主よ。あなたは、ほむべき方。あなたのおきてを私に教えてください。
- 13 . 私は、このくちびるで、あなたの御口の決めたことをことごとく語り告げます。
- 14 . 私は、あなたのさとしの道を、どんな宝よりも、楽しんでます。
- 15 . 私は、あなたの戒めに思いを潜め、あなたの道に私の目を留めます。
- 16 . 私は、あなたのおきてを喜びとし、あなたのことばを忘れません。

9 . どのようにして若い人は自分の道をきよく保てるでしょうか。

あなたのことばに従ってそれを守ることです。

[^]rbdk i r m v l i
 r n v Qal.inf

Axra'ta, r [hKzy>hMB;
 xrao : way, path, hKZ : Pi.Impf. : make, or keep clean, pure. 道徳的きよさ?

r [n : 1. boy, lad, youth. (三ヶ月の)乳幼児、乳離れしたばかりの、青年、適齢期の

2. servant, retainer 家来、郎党、召使い 付き人 家の使用人 従者

「幼子」「従者」「家来」等と幅広く用いられる。 = 要するに未熟者?

生まれて三ヶ月のモーセ、乳離れしたばかりのサムエル

16才のヨシヤ王、17才のヨセフ、「紅顔の美少年」と言われた未成年のダビデ

遊女との情欲に明け暮れる二十代、三十代の若者

若い人の 道 は、「主の道」を絶えず見極め、正しく従うことによって安全と喜びの人生となる。

10-16 節には、神の言葉に対する入念で熱心な扱い方が述べられている。

10 . 私は心を尽くしてあなたを尋ね求めています。

「主がどういう方が調べる」

どうか私が、あなたの仰せから迷い出ないようにしてください。

[^]yt, v M m i y l v f : l a;
 h g v Hi, Impf.

[^]y l i v r d > y B i i l k B.
 v r d : Qal. Pf. resort to, seek

lead astray : 邪道に導く、墮落させる、迷わせる

l a; let (there be) not

(2 節にも)

v n w r d y b l e l k B.

「仰せ hvcmi 権威ある明確な命令 . commandment

11 . あなたに罪を犯さないため、私は、あなたのことばを心にたくわえました。

「御言葉を宝物のように蓄える」

^o l - a j x a, a r { i m l .
 a j x in order that
 Qal. Impf. miss, sin

[^] t r m a i y l n o c y B i B .
 ! p c ' Qal. Pf.

hide, treasure up (貴重なものとして心に銘記する) , reserve, cherish, stored up

h r m a i utterance, speech, word-- esp. saying(s), word(s)(command&promise)

不確定的な indefinit 神の意志の自由性

12. 主よ。あなたは、ほむべき方。あなたのおきてを私に教えてください。 「主をほめたたえ感謝する」

^yQxuyndAM; hwy> hTā; %WB'
dmf Piel Imperative. teach Qal.pas s.pt.

「おきて QX0 : 刻み付けられたもの、刻印されたもの。定め、制定、命令

13. 私は、このくちびるで、あなたの御口の決めたことをことごとく語り告げます。 「唇をもって主を告白し証言し伝える」

^yptj pvmi | Koylr Pšī ytpf Bi
口 唇

Pi.pf. recount 数え直す、数える、rehearse 暗唱する、declare 宣言する
「さばき j Pvmi (へ ミシュパート)、意味多様。法的決定、慣例、主の法的行為等。

14. 私は、あなたのさとしの道を、どんな宝よりも、楽しんでいきます。

!An-1K'1|K. ylf:f; ^ytvde%rdB.
!An wealth, sufficiency TW Qal.Pf.

姪にはふたりの娘がいて.....、「もう十分だ。」と言わない。箴言 30:15

1. wealth, high value, or price. 2. enough!, sufficiency
exult, display joy, as a testimony of God. 大喜びする
「さとし hd[e 確認するという意味で、道徳的宗教的義務についての明確な証言。

あかしの板二枚、あかしの箱、あかしの幕屋、さとしの書 「十戒」のこと

15. 私は、あなたの戒めに思いを潜め、あなたの道に私の目を留めます。 「神の言葉を瞑想し注目し、主の言葉に満足する」

^ytxoaohj ybaw> hxyf a ^ydQpB.

Xyfl Qal Impf. muse 熟考する、黙想する、meditate upon, study, talk, sing, speak to.

j brn Hiph. Impf. look: look upon, behold; じっと見る、注視する、pay attention to, consider; look unto

ny[eB. yrWB. j Bw see its desire upon, gloat over ほれぼれと眺める = look upon, i.e. endure to see
= regard, shew regard to; sq. id: abs. i.e. have power of sight; sq.

「戒め dWp」 詩篇だけに見られる詩的用語。主から委託された事柄か。

16. 私は、あなたのおきてを喜びとし、あなたのことばを忘れません。

^rbD>xkva, al{ [v[llva, ^ytQxB.

(乳飲み子を)あやさす、かわいがる

[[,v' Hithpael. Impf. delight self. to blind oneself, be blinded 閉じる：目を堅く閉ざせ

Xky' Qal. Impf. forget: forget and leave, involving forgetting to mention, ceasing to care for

説教

詩篇 119 篇は 8 節ずつからなる 22 の段落に分けられます。

それぞれ 22 の段落の分はそれぞれ「アレフ a」「ベツ B」(英語で言うと A,B) という具合に、

ヘブル語アルファベットの各文字が八つづつズラッと実に見事に冒頭に並んでいて、

各段落をそれぞれ「アレフ a 詩篇」「ベツ詩篇」などと呼んでいます。

(22x8 で) 全篇 176 節からなる、

詩篇の中で最も壮大かつ長いものですが、主題は極めて明確で、この詩篇全篇の中心テーマは神のことばです。

神のことばが私たちの人生にいかに決定的なものであるかが歌われているのです。

それで各節の文には

「みおしえ hrAT」、「さとし hd[e、「戒め dWp」、「おきて qxa、「仰せ hveml、

「さばき j Pvmi、「ことば rbD、「ことば hrmaI、「道 %rD xraq という十のことばが

入れ替わり立ち替わりほぼ必ず使われて、私たちの人生に神のことばがどんなに大切であるかが強調されます。

各段落に於ける内容は

人生に於ける神のことばの中心性、

神のことばに対する信仰者の姿勢、

以上を受けての詩人の個人的な告白・証しという、これら三点がパターン化して歌われています。

9 - 16節は「ベツ B 詩篇」で、各節の頭はヘブル語アルファベットの「ベツ B (B のこと)」で始まります。ここで詩人はいきなりストレートに神さまに問いかけます。

「どのようにして若い人は自分の道をきよく保てるでしょうか。」

ここでいう「若い人」とは、「幼子」「従者」「家来」と幅広く用いられる言葉です。

その適用される年齢の幅も様々です。

例えば、生まれて三ヶ月のモーセ（出エジプト 2:6）、

乳離れしたばかりのサムエル（サムエル 1:24）、

16 才のヨシヤ王（歴代 34:3）、17 才のヨセフ（創世記 37:2）、

「紅顔の美少年」と言われた未成年のダビデ（サムエル 17:42）、

遊女との情欲に明け暮れるおそらく二十代、三十代？の若者（箴言 7:7）などがそれに該当します。

私たちはよく「若いねー！」と冷やかしにも似た言い方をするのを耳にします。

この「若いねー」という言葉の意味には、

「若々しくていいねー！」という意味もありますが、同時に「なんだ、未熟だなー！」と揶揄するニュアンスもあるようです。

同様に、詩人がここで言うところの「若い人」とは、要するに「未熟な半人前の人間」を総称していると考えられます。

「若い人」というのは、混沌としているけれどもパワーはあります。

「ロックミュージック」というのがありますが、それは確かに年配の人間が聞けばただうるさいだけの巨大な雑音に過ぎません。

でも、若い時はみんなその道路工事の雑音よりもうるさい音楽にはまるのです。

若者がはまるロックミュージック一つ考えてみても、

確かにクラシック音楽と較べると整然としていないし、ズンチャカズンチャカうるさいけれども、底知れぬパワーはあります。

混沌として滅茶苦茶だけど、物凄いパワーはあるのです。

よく聞いてみると、よくこんな曲作れるなというような、耳をつんざく、鼓膜を打ち破るほどの、破壊的なパワーがあります。

何故か若者にはそういうパワーがあるのです。

滅茶苦茶だけれども、パワーだけはある、

礼儀もへったくれもないが、たくましい生命力、生きる力に満ち満ちている、

たとえ金はなくとも、希望と野心と欲望にギラギラとみなぎっている、

一体こいつは何をやらかすのか、危ない奴だと、まわりをハラハラさせる、それが若者です。

それはロックミュージックに没頭している若者もそうだし、

スポーツにひたすら打ち込んでいる若者もそうだし、

東大一直線で勉強一筋の若者もそうだし、

オタクのゲーマーの兄ちゃんもそうだし、

彼女の後を追っかけ回している危ない兄ちゃんもそうだし、

暴走族の兄ちゃんや犯罪に突っ走っている兄ちゃんもそうです。

ひたすら、身の危険も顧みず、熱中してやるんですよ。

誰が何と言おうと、人が何と言おうと、世間からとやかく言われようが、非難されようが、そんなことは関係ないんです。

言われれば言われるほどますます燃えてきたりして、全く誰も止められない、自分の思った道をただ突っ走る、それが若さというものです。

このように、とにかく若さにはパワーがあります。

危ないほどのパワーがあります。

良くも悪くもパワーがあります。

恐ろしいほどのパワーがあるのです。

でも、パワーはあるけどそれが一体どこに行くのかわかりません。

そのまま崖を突っ走って奈落に転落していくかもわかりません。

ちゃんと方向を正しく見定めないと、方向を誤ると滅んでしまいます。

とんでもない方向に向かって行って、滅びてしまいます。

だから、詩人は神さまに問うたのです。

9. どのようにして若い人は自分の道をきよく保てるのでしょうか。

パワーはあるけど全く未熟な「若い人」、そのような「若い人」は果たして「どのようにして自分の道をきよく保てるのでしょうか。」

この問いに対して、詩人は自分でこう答えます。

「あなたのことばに従ってそれを守ることです。」

つまり、危ない若者が滅びぬよう「自分の道を聖く保つ」には、

「神のことばに従ってそれを守る」という道、それしかないというのでした。

「あなたのことばに従ってそれを守る」、それこそがパワフルな若者を正しく方向づける道であるというのです。

9節では一般論として「若い人は……」と論じた詩人でしたが、

しかし、「自分はその未熟な『若い人』には当たらないから安泰だ」などと

自分と関係ない他人事として、涼しい顔して、優雅に詩吟に興じているわけでは決してありませんでした。

続く10節にはこう自分のことを告白します。

「私は心を尽くしてあなたを尋ね求めています。」

「心を尽くして」の直訳は「私のすべての心に於いて」です。

自分の心の全領域に於いて、

自分の精神生活の全領域に於いて、ということになるのでしょうか。

「あなたを尋ね求めています」とは、

「あなたをひたすら探求し、あるいは頼り、訴え、意見を求め、問い合わせ、調査し、研究しています」という意味です。

つまり、ここでの詩人の個人的な告白は、

「私は、いつも、毎日、寝ても覚めても、

あるいは、自分が事をなそうとするたびに、何をなすにも

あなたをひたすら探求し、あるいは頼り、訴え、意見を求め、問い合わせ、調査し、研究しています。」というのです。

何をなすにも、自分勝手に、自分の思った通りに、自分の考えや自分の力で事をなすのではなくて、

どんな時も、神さまによく聞いて、神さまから教えをいただき、神さまから力をいただいて、一つ一つ事をなします、と言うのです。

そして、こう切に哀願するのです。

「どうか私が、あなたの仰せから迷い出ないようにしてください。」

それでは、

「私のすべての心に於いてあなたをひたすら探求しています。」

こう告白したこの詩人は、実際には、具体的には、どのように神さまを探求しているのでしょうか。

それが11節以降に説明されます。

まず詩人が実践していることの一番目は、「みことばをたくわえる」ということです。

「あなたに罪を犯さないため、私は、あなたのことばを心にたくわえました。」(11)

「あなたのことば(直訳『あなたが言われた話、言葉』)」

つまり神さまがその都度その都度言われるみことばを、

一つ一つ丁寧に、「心にたくわえる(直訳『貴重なものとして心に銘記する』)」のです。

そして、そうすることで「罪を犯す」ことを必死で回避し続ける、というわけです。

そして、ここで詩人は、いつもそうしているようになるのか、神さまにその御心を明らかにして下さるよう祈り求めます。

「主よ、

あなたは、ほむべき方。

あなたのおきて(『永遠に変わる事のない神の定め』の意味)を私に教えてください。」(12)

次に、同じく詩人が「自分の道をきよく保つ」ために実践していることの二番目は、「みことばを暗唱する」ということです。

「私は、このくちびるで、あなたの御口の決めたことをことごとく語り告げます。」(13)

「語り告げる」という訳も可能ですが、「暗唱する」「数える」とも訳せます。

勿論、心に蓄えたみことばを人々に語り告げることができれば、これは文句なくすばらしいことです。

人に教えることで、自分自身も教えられます。

みことばというものは、人に教えることで、自分自身のものとなっていくものなのです。

ですから、牧師、伝道師、あるいは教会学校の教師として奉仕をするということは、とても良いことです。

これは恵まれた働きです。

人に教えることで、教える相手の祝福にもなりますが、

何よりみことばを教える人自身、誰よりもみことばに養われ、教えられ、恵みを受けることになるからです。

でも、そうでなくとも、つまり、人に教えるまでにはならなくても、

そのみことばを何度も自分の口で諳んじて暗唱することも、これまた十分にすばらしいことです。

「私は、このくちびるで、あなたの御口の決めたことをことごとく語り告げます。」(13)

詩人は、みことばを暗唱し、これを人々に語り告げて、みことばを自分のものにしようと努力している、と言うのでした。

詩人が「自分の道をきよく保つ」ために実践していることの三番目は、「みことばを行うことを楽しむ」ということです。

「私は、あなたのさとしの道を、どんな宝よりも楽しんでいきます。」(14)

自分の財産や宝石を生きがいとし、楽しみとしている人がいます。

そのように、みことばを生きがいとし、楽しみとする、というのです。

「宝」は「富、充分、充足」という意味です。

「貯金がいくらになった」と、自分の財力が満たされていくことを喜ぶ以上に、

神のことは学び、知り、実践していく生き方（「道」）を喜びとし、楽しみとするのです。

みことは素晴らしい、感動した、それを一つ、また一つと行えるようになった、と自分の信仰の成長を生きがいとするのです。罪の楽しみでなく、快樂をむさぼるのでもなく、「清く生きる」ことを喜ぶのです。

「さとの道」と訳されている言葉の意味は「十戒」のことです。

他の所では「あかしの板二枚、あかしの箱、あかしの幕屋、さとの書」という形で出てきます。

これは要するに「十戒」のことです。

十戒の要点は、「神と人を愛する」生き方です。

「神と人を愛する」生き方、それを一つ一つ実践できた喜び、感動、感謝、詩人はそれを自分の生きがいとしたのです。

「楽しんでいる」とは「大喜びする」という意味です。

詩人は、みことに生きることが、世の金銀に勝る、自分の人生最高の喜びだ、生きがいだ、と告白しているのです。

詩人が「自分の道をきよく保つ」ために実践していることの四番目は、「みことは熟考し、黙想する」ということです。

「私は、あなたの戒めに思いを潜め、あなたの道に私の目を留めます。」（15）

「思いを潜める」とは「熟考する、瞑想する」の意味です。

「目を留める」は「じっと見る、注視する、ほれぼれと眺める」といった意味です。

「読書百遍義自ら見る」と言いますが、神のことは聖書を理解する方法も全く同様だと思います。

牧師は毎週毎週みなさんの前に立って説教しておりますが、まさにこれを実践しております。

何回も、何十回も、時には何百回も、説教する箇所のみことはひたすらじっと読みます。

そして、本文の原典を読んで、辞書を引きながら、一つ一つの言葉の意味を確かめます。

何冊かの註解書を読んで歴代の註解者の解釈に目を通します。

そして、ひたすらそのみことばの意味が自分なりに理解できるまで熟考し、黙想するのです。

意味がわかるまで、考え続けます。

それで、その時わかったからといって、それでそのみことばのすべての意味を理解できたわけではありません。

そのみことばの持つただ一面の、ただ一つの意味を理解できたに過ぎないのです。

ですから、聖書は言うなれば一つの巨大な大宇宙です。

私たちが何気なく手にしている日本語の聖書ができるまで、

どんなに膨大な費用が費やされ、人が血を流し、研究が積み重ねられてきたことでしょう。

神のことは聖書は、私たちが、全知性、全学問、芸術、政治経済、文化的な成果をすべて投入して理解すべきものです。

あるいは、私たちが、全生涯賭けて、死ぬまで探求して理解していくべきものなのです。

詩人は最後にこう告白します。

「私は、あなたのおきてを喜びとし、あなたのことばを忘れません。」（16）

「おきて qx0 は「神の定め」、「ことば rB0」は変わることはない人に対する神の御旨のことで、

「喜びとする」は「かわいがる、（乳飲み子を）あやす」、「忘れる」は「忘れる、離れる」の意味です。

自分は地上にあって不安定な者です、揺れ動く者です、

だからこそ永遠に変わることのない神さまの定め・御心を求め、これを愛し、そこから一生離れず、忘れない、と言うのでした。

以上見てきた詩人の言葉は、

「若者」を例に挙げて話してはいるものの、

実際は自分の弱さを「若者」にたとえて、詩人が「道を誤らないための」自分の工夫を告白しているように読めます。

みことばをしっかりと心に銘記し、

これをじいっと見つめ、探求し、黙想し、暗唱し、人々に証しし、喜んでみことばを実践して、それを生きがいとする、

このような詩人の涙ぐましい努力は、詩人が自分の弱さを知る故に、道を誤らないための知恵あるいは工夫のように思えます。

でも、それが単なる「ちょっとした工夫」などと言うことができるのでしょうか？

実際にこの詩人が実践しているように、これを私たち自身が実践してみようことを考えるとよくわかります。

これは並大抵の努力ではありません。

みことばをしっかりと心に銘記し、

これをじいっと見つめ、

探求し、

黙想し、

暗唱し、

人々に証しし、

喜んでみことばを実践して、

それを自分の最高の生きがいとする、

これは単なる人生のちょっとした工夫などというものではなく、

このような生き方は、必死に神さまに食らいついて生きていくのでなければ到底かなわない生き方と言えるのではないのでしょうか。

つまり、これこそが、実は詩人の言う「心を尽くして神を尋ね求める」生き様なのです。

そして、一体、このような工夫なしに、「自分の道をきよく保てる」人がこの世にいるのでしょうか。

自分は未熟な「若い人」ではないと言いきれる人がいるのでしょうか。

みことばをしっかりと心に銘記し、

これをじいっと見つめ、探求し、黙想し、暗唱し、人々に証しし、

喜んでみことばを実践して、それを生きがいとする、

「心を尽くして神さまを尋ね求める」幸いな人生を生きて行くお互いでありたいと心から祈ります。

Gen. 37:2 ヨセフは十七歳のとき、彼の兄たちと羊の群れを飼っていた。彼はまだ手伝いで、
Gen. 41:12 そこには、私たちといっしょに、侍従長のしもべでヘブル人の若者がいました。

Exod. 2:6 それをあけると、子どもがいた。なんと、それは男の子で、泣いていた。 hkBor [n hNiw
Exod. 33:11 モーセが宿営に帰ると、彼の従者でヌンの子ヨシュアという若者が幕屋を離れないでいた。
Deut. 22:23 ある人と婚約中の処女の女があり、他の男が町で彼女を見かけて、これといっしょに寝た場合は、
Jdg. 8:14 そのとき、彼はスコテの人々の中からひとりの若者を捕え、尋問した。

1 Sam. 1:24 その子が乳離れしたとき...その子を連れ上り、シロの主の宮に連れて行った。その子は幼かった。 r [n' r [Nw
1 Sam. 2:13 祭司の子が三又の肉刺しを手にしてやって来て、
1 Sam. 17:33 サウルはダビデに言った。「.....あなたはまだ若いし、あれは若い時から戦士だったのだから。」
1 Sam. 17:42 ペリシテ人は...ダビデに目を留めたとき、彼をさげすんだ。ダビデが若くて、紅顔の美少年だったからである。
1 Sam. 20:38 その子どもは矢を捨て、主人ヨナタンのところに来た。
2 Sam. 9:9 王はサウルの若い者であったツィバを呼び寄せて言った。.....ツィバには十五人の息子と二十人のしもべがあった。
1 Ki. 3:7 わが神、主よ。私は小さい子どもで、出入りするすべを知りません。
1 Ki. 11:17 ハダデは少年であった。
2 Ki. 5:14 そこで、ナアマンは...幼子のからだのようになり、きよくなった。
2 Ki. 5:20 神の人エリシャに仕える若い者ゲハジはこう考えた。
1 Chr. 12:28 ツァドクは若い勇士で、
1 Chr. 22:5 ダビデは言った。「わが子ソロモンは、まだ若く力もない。
2 Chr. 13:7 それに、レハバムは若くて、おくびょうであり、彼らに対抗して自分の力を増し加えることがなかった。
2 Chr. 34:3 ヨシヤは八歳で王となり、...彼の治世の第八年に、彼はまだ若かったが、その先祖ダビデの神に求め始め、

Prov. 7:7 わきまえのない者たちを見ていると、若者のうちに、思慮に欠けたひとりの若い者のいるのを認めた。

Prov. 20:11 幼子でさえ、何かするとき、その行ないが純粋なのかどうか、正しいのかどうかを明らかにする。

Prov. 22:15 愚かさは子どもの心につながれている。懲らしめの杖がこれを断ち切る。

Jer. 1:6 そこで、私は言った。「ああ、神、主よ。ご覧のとおり、私はまだ若くて、どう語っていいかわかりません。」

Lam. 2:21 若い者も年寄りも道ばたで地に横たわり、私の若い女たちも若い男たちも剣に倒れました。

Hos. 11:1 イスラエルが若いころ、わたしは彼を愛し、わたしの子をエジプトから呼び出した。

この詩篇は、22文字のヘブル語アルファベットの各文字を8節ずつ用いて176節にまとめ上げた巧みな構造から成っている。主題は「神の言葉への愛」であるが、詩人は言葉そのものを愛するのではない。

神の言葉としての律法が神の御旨を明確に告知している故に愛するのであって、まず神を愛する故にその言葉を愛し守るのである

「これは1つの支配的な中心点を持っており、作者の思想はこの点をめぐっている。すなわち、神の言葉と律法こそが生全体の決定的要因だということである。神の言葉と律法に言及しない節は一つもないくらいである。……この詩から律法の全『神学』がその理論面と実

「際面から見てとれる」(A・ヴァイザー)。

以上のように神の言葉に対する愛が主題であり、神の言葉に関する表現も多様であるが、その表現は10の言葉である。

「みおしえ hrAT」(ヘ トーラー)

範囲の広い教えのことで、神の教え、人の教えの両方に用いられる。教えの全体、律法、モーセ五書等を指す。

「さとし hd'le」(ヘ エーダー)、確認するという意味で、道徳的宗教的義務についての明確な証言。

「戒め dWP」(ヘ ビックード)、詩篇だけに見られる詩的用語。主から委託された事柄か。

「おきて qXO」(ヘ ホーク)、刻み付けられたもの、刻印されたもの。

「仰せ hvēni」(ヘ ミツワー)、権威ある明確な命令。

「さばき j P'vni」(ヘ ミシュパート)、意味多様。法的決定、慣例、主の法的行為等。

「ことば」(ヘ ダーパール)、確定的な definit 定められた神の意志表現 人に対する神の御旨(十戒=十の言葉)。

「ことば」(ヘ イムラー) 不確定的な indefinit 神の意志の自由性

「道」と訳されている2つの言葉 ヘ デレク %rD, 神のトーラーによって示された生活規範。

ヘ オーラフ xrao デレク %rD の詩的同義語

[注 解]

アーレフ(1 8)

主の教えに従うことが真の幸いの源である。この部分には 道 みおしえ さとし 戒め おきて 仰せ さばき という神の言葉に関する多様な表現が用いられていて、神の言葉への愛と熱心が表明されている。神の言葉の豊かさは神の豊かさを認めることであるが、しかも唯一の神である。1 4節は、主の言葉を受用する者の幸い、5 8節は主の言葉を託された主のしもべたる者の自覚と祈りと言えよう

1 節 . 幸い は 1 : 1 参照

4 節の 戒め は「委託物」としての神の言葉。それは 堅く守るべき 委託物である

7 節 . 義のさばき とは主の正しいおきて。それを学ぶことが感謝を増し加える。自分の足りなさ、未熟さ、不信仰、不勉強の自覚が主の前での進歩と感謝とに導く(ロマ 11 : 33)

8 節 酷く見放さないでください。

今日は12月25日、クリスマスです。

みなさん、クリスマスというのは何の日か知っていますか？

サンタさんが来る日ではありません。

サンタさんが来た家もあったかもしれませんが、

クリスマスというのは本来サンタさんの来る日ではなく、イエスキリストさまがお生まれになったことを記念する日です。

イエスさまは今から約二千年前にお生まれになりました。

今年はイエスさまがお生まれになって二千五年目になるということで、西暦二千五年というのです。

2005年というのは、キリスト降誕以降2005年経ったということを意味しているのです。